

氏名 _____ (問題・答案用紙)

得点	／ 20
----	------

問 題 当年度の直接原価計算方式の損益計算書は次のとおりであった。平均変動費率および年間固定費が次年度も当年度と同様であると予測されているとき、下記の問いに答えなさい。(20点)

直接原価計算方式の損益計算書

(単位：万円)

売上高	5,000
変動売上原価	<u>2,800</u>
変動製造マージン	2,200
変動販売費	<u>200</u>
貢献利益	2,000
製造固定費	1,000
固定販売費および一般管理費	<u>800</u>
営業利益	<u><u>200</u></u>

- 問1 損益分岐点の売上高はいくらか。
- 問2 400万円の営業利益を達成する売上高はいくらか。
- 問3 現在の売上高が何%落ち込むと損益分岐点の売上高に達するか。
- 問4 売上高が500万円増加するとき営業利益はいくら増加するか。
- 問5 損益分岐点の売上高を100万円引き下げるためには、固定費をいくら引き下げる必要があるか。

問1 万円

問2 万円

問3 %

問4 万円

問5 万円

問 題 当年度の直接原価計算方式の損益計算書は次のとおりであった。平均変動費率および年間固定費が次年度も当年度と同様であると予測されているとき、下記の問いに答えなさい。(20点)

直接原価計算方式の損益計算書

(単位：万円)

売上高	5,000
変動売上原価	2,800
変動製造マージン	2,200
変動販売費	200
貢献利益	2,000
製造固定費	1,000
固定販売費および一般管理費	800
営業利益	200

- 問1 損益分岐点の売上高はいくらか。
 問2 400万円の営業利益を達成する売上高はいくらか。
 問3 現在の売上高が何%落ち込むと損益分岐点の売上高に達するか。
 問4 売上高が500万円増加するとき営業利益はいくら増加するか。
 問5 損益分岐点の売上高を100万円引き下げるためには、固定費をいくら引き下げる必要があるか。

●貢献利益率＝貢献利益÷売上高＝2,000万円÷5,000万円＝0.4(＝40%)

問1 万円
 損益分岐点売上高＝固定費÷貢献利益率
 ＝(1,000万円＋800万円)÷0.4
 ＝4,500万円

問2 万円
 目標売上高＝(固定費＋目標利益)÷貢献利益率
 ＝(1,800万円＋400万円)÷0.4
 ＝5,500万円

問3 %
 安全余裕率＝(売上高－損益分岐点売上高)÷売上高
 ＝(5,000万円－4,500万円)÷5,000万円
 ＝0.1(＝10%)

問4 万円
 利益増加額＝売上増加額×貢献利益率
 ＝500万円×0.4
 ＝200万円

問5 万円
 損益分岐点における利益額＝貢献利益－固定費＝0
 ∴固定費＝貢献利益
 売上高が(損益分岐点－100万円)のときの貢献利益は、
 (4,500万円－100万円)×0.4＝1,760万円
 この値が固定費と一致するから、固定費の引下げ額は
 1,800万円－1,760万円＝40万円

出所：141回(2015年11月)第5問

氏名

(問題・答案用紙)

得点	／ 20
----	------

問 題 X社は製品Aを製造・販売している。製品Aの販売単価は400円／個であった（当期中は同一の単価が維持された）。当期の全部原価計算による損益計算書は、下記のとおりであった。原価分析によれば、当期の製造原価に含まれる固定費は168,000円、販売費に含まれる固定費は24,000円、一般管理費95,000円はすべて固定費であった。固定費以外はすべて変動費であった。なお、期首と期末に仕掛品と製品の在庫は存在しないものとする。（20点）

損 益 計 算 書（単位：円）	
売 上 高	1,120,000
売 上 原 価	812,000
売 上 総 利 益	308,000
販売費および一般管理費	203,000
営 業 利 益	105,000

- 問 1 答案用紙の直接原価計算による損益計算書を完成しなさい。
- 問 2 当期の損益分岐点の売上高を計算しなさい。
- 問 3 販売単位、単位当たりの変動費、固定費に関する条件に変化がないものとして、営業利益140,000円を達成するために必要であった売上高を計算しなさい。

問 1	直接原価計算による損益計算書 (単位：円) <table><tr><td>売 上 高</td><td>()</td></tr><tr><td>変動売上原価</td><td>()</td></tr><tr><td>変動製造マージン</td><td>()</td></tr><tr><td>変動販売費</td><td>()</td></tr><tr><td>貢 献 利 益</td><td>()</td></tr><tr><td>製造固定費</td><td>()</td></tr><tr><td>固定販売費および一般管理費</td><td>()</td></tr><tr><td>営 業 利 益</td><td>()</td></tr></table>	売 上 高	()	変動売上原価	()	変動製造マージン	()	変動販売費	()	貢 献 利 益	()	製造固定費	()	固定販売費および一般管理費	()	営 業 利 益	()
売 上 高	()																
変動売上原価	()																
変動製造マージン	()																
変動販売費	()																
貢 献 利 益	()																
製造固定費	()																
固定販売費および一般管理費	()																
営 業 利 益	()																

問 2 当 期 の 損 益 分 岐 点 の 売 上 高 = 円

問 3 営 業 利 益 140,000円を達成するための売上高 = 円

問 題 X社は製品Aを製造・販売している。製品Aの販売単価は400円／個であった（当期中は同一の単価が維持された）。当期の全部原価計算による損益計算書は、下記のとおりであった。原価分析によれば、当期の製造原価に含まれる固定費は168,000円、販売費に含まれる固定費は24,000円、一般管理費95,000円はすべて固定費であった。固定費以外はすべて変動費であった。なお、期首と期末に仕掛品と製品の在庫は存在しないものとする。

損 益 計 算 書 (単位：円)	
売 上 高	1,120,000
売 上 原 価	812,000
売 上 総 利 益	308,000
販売費および一般管理費	203,000
営 業 利 益	105,000

- 問1 答案用紙の直接原価計算による損益計算書を完成しなさい。
 問2 当期の損益分岐点の売上高を計算しなさい。
 問3 販売単位、単位当たりの変動費、固定費に関する条件に変化がないものとして、営業利益140,000円を達成するために必要であった売上高を計算しなさい。

問1

直接原価計算による損益計算書 (単位：円)	
売 上 高	(1,120,000)
変動売上原価	(644,000)
変動製造マージン	(476,000)
変動販売費	(84,000)
貢 献 利 益	(392,000)
製造固定費	(168,000)
固定販売費および一般管理費	(119,000)
営 業 利 益	(105,000)

問2 当期の損益分岐点の売上高 = 820,000 円

問3 営業利益140,000円を達成するための売上高 = 1,220,000 円

問1

売上高 (全部原価計算の) 損益計算書のまま

$$=1,120,000\text{円}$$

変動売上原価 = 売上原価 - 製造固定費

$$=812,000\text{円} - 168,000\text{円} = 644,000\text{円}$$

変動製造マージン = 売上高 - 変動売上原価

$$=1,120,000\text{円} - 644,000\text{円} = 476,000\text{円}$$

変動販売費 = 販売費および一般管理費 - 固定販売費 - 一般管理費

$$=203,000\text{円} - 24,000\text{円} - 95,000\text{円} = 84,000\text{円}$$

貢献利益 = 変動製造マージン - 変動販売費

$$=476,000\text{円} - 84,000\text{円} = 392,000\text{円}$$

製造固定費 問題文のまま

$$=168,000\text{円}$$

固定販売費および一般管理費 = 固定販売費 + 一般管理費

$$=24,000\text{円} + 95,000\text{円} = 119,000\text{円}$$

営業利益 = 貢献利益 - 製造固定費 - 固定販売費および一般管理費

$$=392,000\text{円} - 168,000\text{円} - 119,000\text{円} = 105,000\text{円}$$

売上高	1,120,000円
変動費	<u>728,000円</u>
貢献利益	392,000円
固定費	<u>287,000円</u>
営業利益	<u><u>105,000円</u></u>

●貢献利益率 = 貢献利益 ÷ 売上高

$$=392,000\text{円} \div 1,120,000\text{円} = 0.35 (=35\%)$$

問2

損益分岐点売上高 = 固定費 ÷ 貢献利益率

$$=287,000\text{円} \div 0.35 = 820,000\text{円}$$

問3

目標売上高 = (固定費 + 目標利益) ÷ 貢献利益率

$$=(287,000\text{円} + 140,000\text{円}) \div 0.35 = 1,220,000\text{円}$$

問題 (20点)

X社の来月の予定損益計算書にもとづいて、答案用紙の()に、適当な用語または数字を埋めなさい。

なお、使用する用語は次のものに限る。

売上総利益	売上原価	間接費	貢献利益	固定費
全部原価計算	直接原価計算	標準原価	標準原価計算	変動費

予定損益計算書

売上高	@200,000円×35,000台	700,000万円
変動売上原価		
原料費	@ 90,000円×35,000台	315,000万円
加工費	@ 18,000円×35,000台	63,000万円
変動製造マージン	@ 92,000円×35,000台	322,000万円
変動販売費	@ 12,000円×35,000台	42,000万円
貢献利益	@ 80,000円×35,000台	280,000万円
固定費		
製造原価	80,000万円	
販売費および一般管理費	60,000万円	140,000万円
営業利益		140,000万円

氏名 _____

(解答用紙)

得点	／ 20
----	------

X社は(①)方式の損益計算書を採用している。①方式の損益計算書では、原価(製造原価、販売費及び一般管理費)を(②)と(③)に分解し、売上高からまず②を差し引いて(④)を計算し、④から③を差し引いて営業利益を計算する。この方式の損益計算書は、正規の損益計算書上で、短期利益計画に役立つ原価・営業量・利益の関係を明示している。

X社の来月の貢献利益率は(⑤)%、損益分岐点販売量は(⑥)台である。損益分岐点の営業量と実際の営業量との差を安全余裕度というが、X社の来月の安全余裕度は販売量で言えば(⑦)台である。

X社の来月の売上高営業利益率は(⑧)%である。売上高営業利益率26%の営業利益をあげる売上高は(⑨)億円であり、そのときの④は(⑩)億円である。

X社は(① **直接原価計算**)方式の損益計算書を採用している。①方式の損益計算書では、原価(製造原価、販売費及び一般管理費)を(② **変動費**)と(③ **固定費**)に分解し、売上高からまず②を差し引いて(④ **貢献利益**)を計算し、④から③を差し引いて営業利益を計算する。この方式の損益計算書は、正規の損益計算書上で、短期利益計画に役立つ原価・営業量・利益の関係を明示している。

X社の来月の貢献利益率は(⑤ **40**)%、損益分岐点販売量は(⑥ **17,500**)台である。損益分岐点の営業量と実際の営業量との差を安全余裕度というが、X社の来月の安全余裕度は販売量で言えば(⑦ **17,500**)台である。

X社の来月の売上高営業利益率は(⑧ **20**)%である。売上高営業利益率26%の営業利益をあげる売上高は(⑨ **100**)億円であり、そのときの④は(⑩ **40**)億円である。

予 定 損 益 計 算 書			
売上高	@ 20万円×35,000台……………	700,000万円	← χ と、おくと
変動費	@ 12万円×35,000台……………	420,000万円	0.6χ
貢献利益	@ 8万円×35,000台……………	280,000万円	0.4χ
固定費		140,000万円	140,000
営業利益		<u>140,000万円</u>	<u>$0.4\chi - 140,000$</u>

⑤ 貢献利益率 = $0.4 = 40\%$

⑥ 損益分岐点のときは、利益 = 0 だから

損益分岐点売上高を χ とすると

$$0.4\chi - 140,000 = 0$$

$$0.4\chi = 140,000$$

$$\chi = 140,000 \div 0.4$$

$$= 350,000 \text{ (万円)}$$

損益分岐点売上高が350,000万円だから

損益分岐点販売量は

$$350,000 \text{ 万円} \div 20 \text{ 万円} = 17,500 \text{ (台)}$$

⑦ 安全余裕度 = 予定販売数量 - 損益分岐点販売数量 = $35,000 \text{ 台} - 17,500 \text{ 台} = 17,500 \text{ 台}$

⑧ 売上高営業利益率 = $\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} = \frac{140,000}{700,000} = 0.2 = 20\%$

⑨ 営業利益 = 売上高 × 営業利益率だから、
売上高営業利益率26%となる売上高 χ は

$$0.4\chi - 140,000 = 0.26\chi$$

$$0.4\chi - 0.26\chi = 140,000$$

$$0.14\chi = 140,000$$

$$\chi = 140,000 \div 0.14$$

$$= 1,000,000 \text{ (万円)} = 100 \text{ (億円)}$$

⑩ 貢献利益 = 売上高 × 貢献利益率 = $100 \text{ 億円} \times 40\% = 40 \text{ 億円}$